

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 1 区分
 【発行日】令和 4 年 4 月 5 日(2022.4.5)

【公開番号】特開 2021-8372(P2021-8372A)
 【公開日】令和 3 年 1 月 28 日(2021.1.28)
 【年通号数】公開・登録公報 2021-004
 【出願番号】特願 2019-121941(P2019-121941)
 【国際特許分類】

C 0 4 B 3 5 / 5 2 4 (2 0 0 6 . 0 1)

10

【 F I 】

C 0 4 B 3 5 / 5 2 4

【手続補正書】

【提出日】令和 4 年 3 月 28 日(2022.3.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

20

【 0 0 2 4 】

ここで、曲げ強さは、J I S K 7 0 7 4 に準拠して測定するものである。具体的には、両端を単純支持された試験片の 1 点に荷重（3 点曲げ）を加え、所定の試験速度で試験片をたわませて得られた破壊時荷重又は最大荷重を用いて、以下の式で求められる曲げ強さ σ_b (M P a) を言うものである。

$$\sigma_b = (3 P_b L) / (2 b h^2)$$

式中、L は支点間距離 (m m) 、 b は試験片の幅 (m m) 、 h は試験片の厚さ (m m) 、 P b は破壊時荷重又は最大荷重 (N) を意味する。ここで、試験片を任意の大きさに切り分けて測定を行うことができることに留意されたい。

【手続補正 2】

30

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 2 6 】

ここで、曲げ弾性率は、J I S K 7 0 7 4 に準拠して測定するものである。具体的には、両端を単純支持された試験片の 1 点に荷重（3 点曲げ）を加え、所定の試験速度で試験片をたわませて荷重 - たわみ曲線を記録し、荷重 - たわみ曲線の直線部の初期の勾配を用いて、以下の式で求められる曲げ弾性率 E_b (G P a) を言うものである。

$$E_b = (1 / 4) \times (L^3 / b h^3) \times (P / \delta)$$

40

式中、L は支点間距離 (m m) 、 b は試験片の幅 (m m) 、 h は試験片の厚さ (m m) 、 P / δ は、荷重 - たわみ曲線の直線部の勾配 (N / m m) を意味する。ここで、試験片を任意の大きさに切り分けて測定を行うことができることに留意されたい。